

比べて、局所的に堆肥の密度が高くこれに根が接するため、完熟の良質堆肥を用いることがたいせつです。11頁でみたように、発酵温度が落ち着き、さらさらとして黒っぽく、容積重0.5くらい、pH8以上のものが効果のある堆肥です。

### ● 季節で変わる堆肥の効果に注意

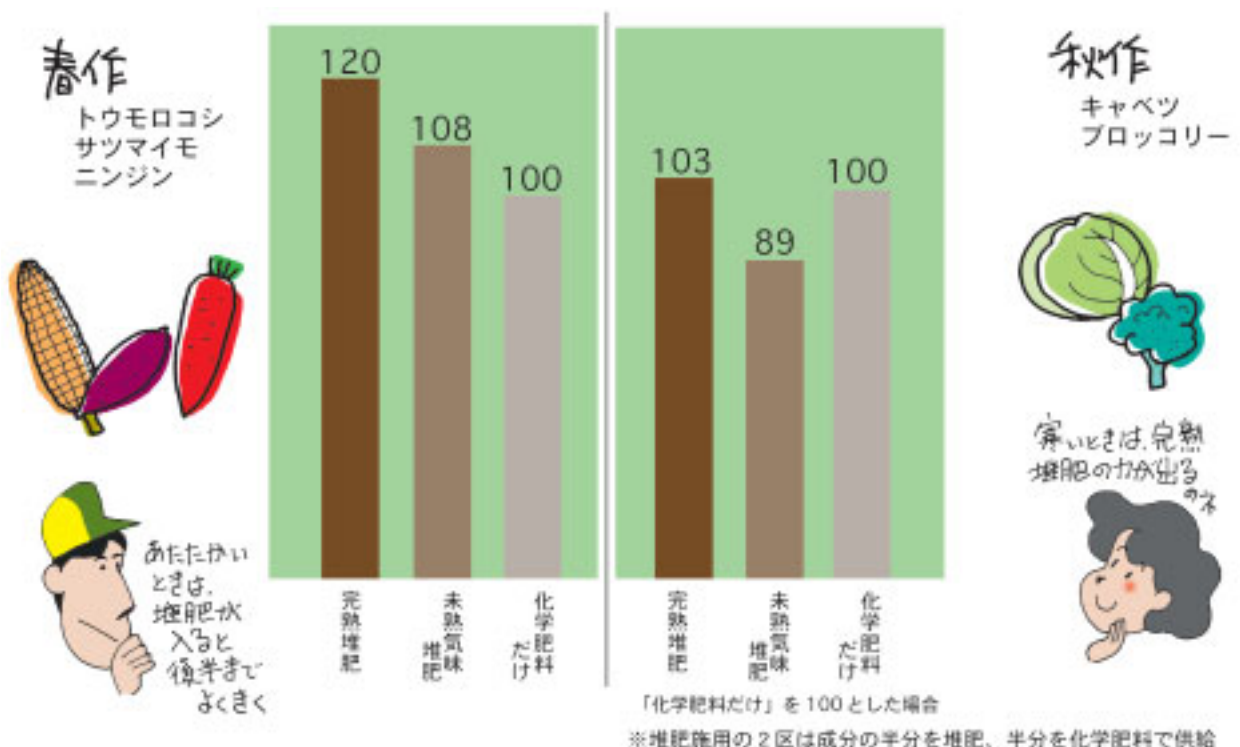
下の図は、完熟生ごみ堆肥と未熟生ごみ堆肥について、春作のトウモロコシ・サツマイモ・ニンジンと、秋作のキャベツ・ブロッコリー

りで、化学肥料だけの栽培と収量を比べたものです。化学肥料の成分は早く吸収され、堆肥の成分はゆっくりと溶け出して吸収されます。そのため高温期栽培の春作では、化学肥料だけだと早々と吸われたり流失したりして、後半に肥切れとなって収量が上がらないのに対して、生ごみ堆肥区は2つとも、後半まで吸収されて収量が高まりました。いっぽう、低温期の秋作では、化学肥料区はスムーズに吸収されて収量が確保されたのに対して、堆肥区は成分の溶け出しが遅れ、未熟堆肥でその傾向が激しく、収量が低下しました。完熟堆肥では堆肥による微生物活動の活発化、保水性・通気性の向上、根の活力増強などの効果で養分吸収が高まり、わずかに収量が多くなっています。

完熟堆肥はオールシーズン積極的な活用、未熟気味な堆肥は「土中発酵」などでパワーアップしてから使うことがおすすめです。



堆肥マルチで効果をあげるには良質完熟堆肥を使用



生ごみ堆肥利用栽培の春作・秋作での収量